

基本構想



1. 15年後の長岡京市の姿（将来像）

2. 政策の大綱

まちづくりの基本理念

わたしたちのまち長岡京市は、京都と大阪の間に位置し、自然豊かな西山に抱かれ、かつて、水運の便と湧水の恩恵のもと、^{おとくにのみや}第国宮・長岡京と都が置かれるなど、悠久の歴史の厚みを誇るまちです。

人びとの営みが織り成してきた歴史・文化と、水や緑に恵まれた自然と都市とが調和した環境、高い交通利便性をもって、さまざまな人が暮らし、学び、働き、心を交わし、憩うまちとして発展してきました。

市民アンケートや市民ワークショップ、団体との懇談会の結果から、快適で住み続けたいまちとして評価をいただいているのは、市民・団体・企業の力を源とした、一人ひとりが主役となるまちづくりを進めてきたことにあると考えています。

わたしたちは、この魅力あふれるまちを、豊かな水と緑の環境を守りつつ、生活の安心と安全、地域経済の更なる発展を図りながら、誰もがいきいきと健康に暮らせるまちとして次世代に引き継いでいかなければなりません。

次代を担う子どもたちをはじめ長岡京市民と長岡京市を夢と希望ある未来へと導くため、市民・団体・企業の参画と協働により、まちの明確な将来像を描き、市政全般を体系的に機能づける総合計画を軸とした行財政運営を継続し、豊かでたくましい持続可能なまちを目指します。

小学生 まちづくりの"夢"ポスターコンクール



教育長賞



市長賞



総合計画審議会会長賞



のこちゃん賞



ミヤコちゃん賞



たけとん賞



はっぴいちゃん賞



しろんちゃん賞



お玉ちゃん賞

- 基本構想 -

1. 15年後の長岡京市の姿（将来像）

この基本構想では「住みたい 住みつづけたい 悠久の都 長岡京」をキャッチフレーズに掲げ、「ひととまちの姿」「人口フレーム」「土地利用構想」のそれぞれの側面から、私たちが15年後に求めるまちの将来像を描きます。

これからの15年は、まちの力を最大に発揮し、まちの魅力をさらに高めて、多くのひとに訪れたい、住みたい・住みつづけたいといわれる長岡京市、また、人口減少時代を越えて持続的に発展できる長岡京市としていくことが、重要となります。

複雑化・高度化する行政需要への対応や、複雑に絡みあう課題に対応するため、横のつながりを意識した多様な主体の協働による市政の推進が求められています。

とりわけ、高度成長期に集中して整備した公共施設の維持管理・更新や、中心市街地の整備、また、市民生活の安心・安全の基礎である、小地域でのコミュニティの働きを強めることについては、早期に着手し着実に推進していく必要があります。

人口構造の変化への即応や、長岡京 IC・西山天王山駅周辺など新たな都市資源の活用と併せて、これらの大きな課題に取り組むことで、さらに、本市のまちと暮らしの魅力をつくり・守り・磨いて、将来世代により良い長岡京市を暮らし継いでいかねばなりません。



(1) ひととまちの姿

長岡京市が発展してきた経過を踏まえ、将来を展望して、3つの視点から、15年後の長岡京市のひととまちの姿を描きます。

うるおい・環境 ～緑と水と歴史を継いで～

15年後に
めざす姿

この地に暮らした先人の心が確かに引き継がれ、うるおいに満ちた暮らしがあり、他に秀でる良質の住み心地が醸されている。

西山の緑・水、歴史・文化、良好なまち並みなどの“うるおい資源”があり、人々のあたたかい心、多様な学びが、私たちの生活に豊かさをもたらしています。これらを継承し、また、持続可能な循環型社会への転換を進め、さらに住み心地の良いまちを目指します。

にぎわい・交流 ～まちの魅力を最大に～

15年後に
めざす姿

まちなかがにぎわい、巡りたい・歩きたいまち長岡京を舞台に、人・もの・文化の交流、産業の活力が導かれている。

交通至便というまちの強みを最大に活かし、地域の農商工業などの活性化に結びつけるとともに、市内移動の円滑化を図っています。これをさらに進めるとともに市街地の整備を図り、まちの活力を軸に、多世代がふれあい、多様な文化が交わることで、にぎわいと交流がうまれるまちを目指します。

あんしん・安全 ～支えあう市民生活へ～

15年後に
めざす姿

いのち・尊厳・健康・財産が守られ、コミュニティの働きのもとで強まる自治の機能と市民間の支えあいが、暮らしの安心をつくっている。

安心は、確かな安全の上に成り立つ市民生活の基本です。まちと暮らしの安心は、私たち一人ひとりの不断の努力と地域の力がつくり守っていくものです。自助、互助・共助、公助の精神で互いに支えあい、心豊かに生活できるまちを目指します。

(2) 人口フレーム

長岡京市の人口は、昭和40年代に急増しましたが、その後は増加の勢いが落ち着き、平成20年以降は7万9千から8万人程度で推移しています。

日本全体では、少子・高齢化と人口減少が、喫緊の課題として国全体での対応が検討されています。現在、本市の人口は微増していますが、国立社会保障・人口問題研究所の報告では、今後、少子・高齢化と人口減少の傾向が示されています。

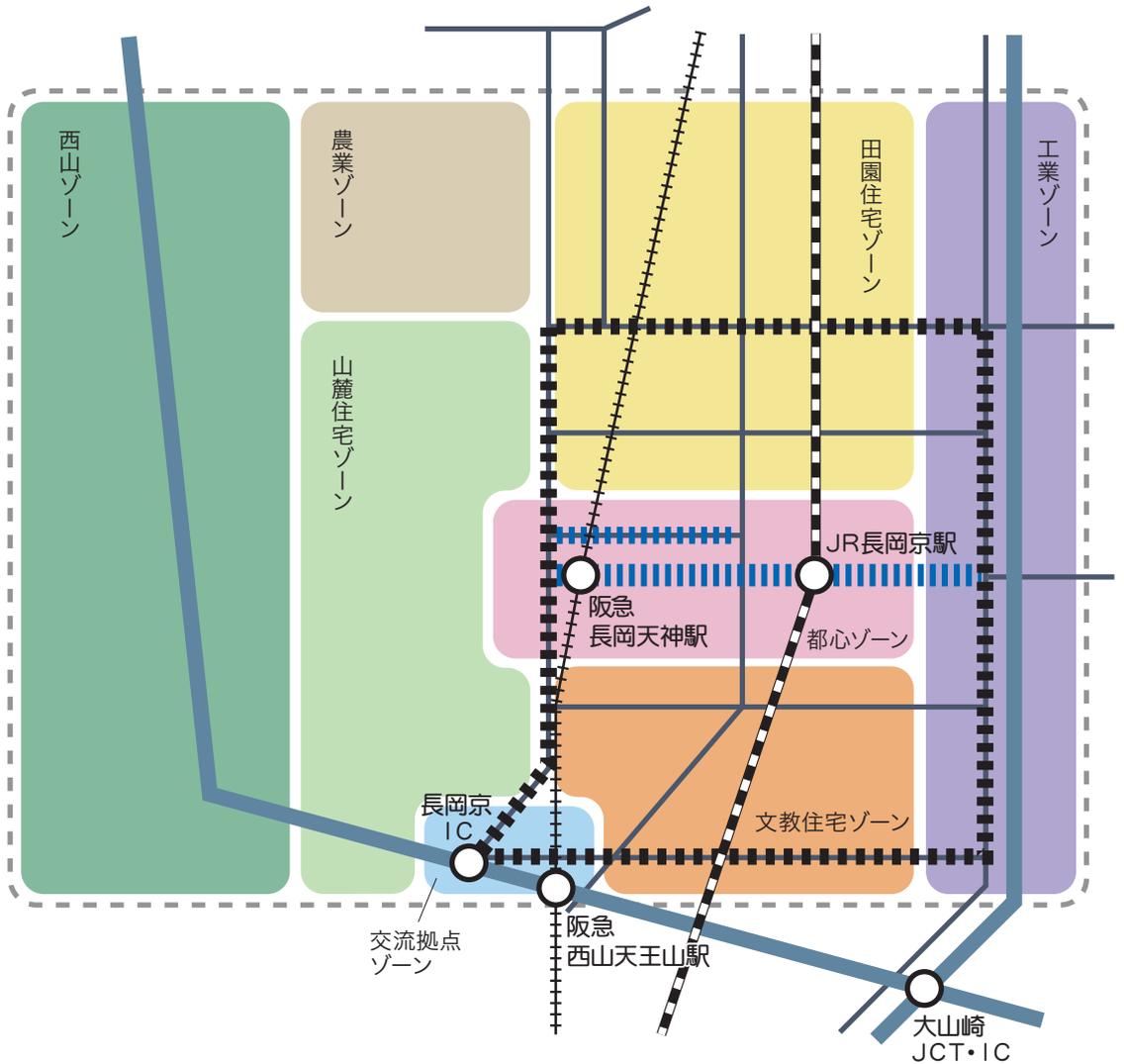
こうした問題に留意し、地域資源の活用を進めることで、都市としての活気を保ち、多様な世代がそれぞれのライフステージを満喫できるまちを目指します。人口は都市の活力の源です。今後も魅力あるまちづくりを進め、交流人口の増加や定住志向の高まりを促すよう、市民生活の安定を守りながら、人口構成のバランスの確保に努めていくこととします。

これらを踏まえ、平成42年において8万人の市民がゆとりを持って暮らせるまちを目指します。

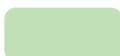


(3) 土地利用構想

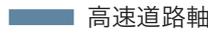
長岡京市の土地利用は、西山山麓から東へなだらかに広がる斜面と平坦地という地理的な特性に従って、いくつかの特徴的な地域に分けることができます。そうした特性に即して次の8つのゾーンを設定し、各地域の土地利用の目標を明らかにします。



土地利用ゾーン

- | | | |
|---|---|---|
|  都心ゾーン |  交流拠点ゾーン | |
|  山麓住宅ゾーン |  田園住宅ゾーン |  文教住宅ゾーン |
|  農業ゾーン |  工業ゾーン | |
|  西山ゾーン | | |

交通軸

- | | |
|--|---|
|  交通メイン軸 |  環状道路 |
|  交通結節点 | |
|  高速道路軸 |  幹線道路軸 |
|  阪急電鉄京都線 |  JR東海道本線 |

にぎわい

都心ゾーン

- ▶ 利便性を活かした空間を有効に活用し、バランスのとれた都市機能※¹と住宅整備によるにぎわいのあるゾーンを目指す。
- ▶ 阪急長岡天神駅周辺整備を中心とした市街地整備を推進する。

交流拠点ゾーン

- ▶ 交通結節点という新たな機能を活用して、市民と来訪者の交流を促し、市内に交流の輪が広がるゾーンを目指す。
- ▶ 本ゾーンを起点に、人々の本市での活発な交流が展開されるような都市機能の誘導を目指す。

住宅

山麓住宅ゾーン

- ▶ みどりあふれる良好な住宅環境を維持し、市中心へのアクセスを確保したゆとりのある住宅地を目指す。
- ▶ ゆとりある住宅を活かした多世代世帯の入居など住み替えを促進し、良好な住宅環境を維持する。

田園住宅ゾーン

- ▶ 身近な農地と調和した住環境整備によるバランスのとれた住宅地を目指す。
- ▶ 農地と調和した住宅地として、ゆとりある住環境の確保や農地なども活かした景観形成により、住宅地としての環境の質的向上を目指す。
- ▶ 低層住宅地区では、敷地細分化を防止し、良好な住環境を維持・保全する。

文教住宅ゾーン

- ▶ 歴史的資源を活かした新たな魅力を生み出す住宅地を目指す。
- ▶ 主要な通りの景観形成や緑化推進などにより、住宅地としての質的向上を目指す。
- ▶ 中層住宅地では、用途及び建物の高さの無秩序な混在を防ぎ、良好な住宅地の保全を目指す。

産業

農業ゾーン

- ▶ 周辺の住宅や西山との調和のとれた農業振興と、貴重な田園資源を保全した環境の活用を目指す。
- ▶ 農業や農産物に親しめる地域特性を活かして、福祉・教育分野の活動や交流が活性化するような環境づくりを目指す。

工業ゾーン

- ▶ 工業生産基盤の維持・集積と、多様な用途が調和した土地利用を目指す。
- ▶ 国道171号を中心にした沿道複合施設の立地誘導や良好な沿道景観整備を目指す。

自然

西山ゾーン

- ▶ 産官学民による保全活動の促進により、多様な生き物が生息し、四季折々の表情を見せる特徴ある景観を目指す。
- ▶ 近郊緑地保全区域や風致地区などに指定した優れた自然環境を保全する。

※1. 市民生活を支援する商業・福祉・医療・教育サービスや公共交通、交流などの機能

2. 政策の大綱

(1) うるおいに満ちた、“良質の住み心地”をつくる

西山に抱かれた“環境の都”として循環型社会づくりを進め、自然の恵みや魅力を生活の中で実感できるまちを目指します。

地域の宝である子どもがその尊厳を守られ、地域のつながりの中で健やかに成長できるまち、地域に見守られながら、親が子育てを楽しみ、学び育つことができるまちを築いていきます。

市民主導の地域づくりのもとで、誰もが生涯を通じて学び、文化やスポーツに親しみながら、自分らしい人生を選びとっていけるまちづくりを進めていきます。

(2) まちの魅力を高め、“多彩なにぎわい”をつくる

新たな都市の魅力を生み出すため、阪急長岡天神駅周辺地区の整備に着手し、空間の有効利用により都市資源の効果的な集積を進めていきます。

住む人・学ぶ人・働く人・訪れる人が快適に移動できるよう、バリアフリーを進め、公共交通の充実を目指します。

市街地の整備と併せ、魅力ある農業及び商工業を営める環境づくりに努め、地域資源を活かした観光の振興を図ります。

(3) 人・地域の絆に根ざした、“ゆるぎない安心”をつくる

地域の自治機能を高め、市民・団体・企業等が連携し、それぞれが役割を果たすことにより、まちぐるみで確かな安心を築きます。

乳幼児期から高齢期まで、すべての市民の人権が守られ、充実した保健・医療・福祉の社会資源がもたらす安心の環境を維持していきます。

防災・防犯に対する安全性と危機対応力をさらに高め、地震や集中豪雨など、大きな被害が想定される災害への備えを強化していきます。

市民に開かれた行財政運営のもと、
これらの政策を進めることで、
都市としての魅力を育み、活かし、伝え、
選ばれるまち 長岡京市をつくれます。

